

SBS ラジオ「ラジオフォーラムしずおかマイトーク」内容
(5月25日(日)18時15分～30分放送)

SBS ラジオ許諾済み

澤木：経済界やまちづくりなど、静岡県内の様々な分野でご活躍の方々にお話をうかがう「ラジオフォーラムしずおかマイトーク」。この番組は静岡経済懇話会、一般社団法人静岡県中部未来懇話会、サンフロント21懇話会、21世紀倶楽部の協力でお送りします。

こんにちは、澤木久雄です。本日のゲストの方をご紹介します。

静岡福祉大学・学長でいらっしゃいます。太田晴康さんです。よろしくおねがいします。

学長：よろしくおねがいします。

澤木：太田さんはこの4月に静岡福祉大学の学長に就任されました。ただそれ以前も教鞭を執っていらしたということですから、10年近くこの福祉大にいらしたということで、どうですか気持ちの上では学長になってからとそれ以前では変わりましたか。

学長：そうですね。教えるという教育分野での活動の意識は変わりませんが、やはり組織のトップになりますと、対外的には何があっても全面的に責任を負う。その意識を持つという点は違ったのかなと思います。つまり組織の人に例えば何かあった時にそういう組織の一人の責任にできません。何があろうとトップの責任にはねかえる。その決意と言いますか意識の点で変わったのかなと思います。

澤木：そういう気持ちをお持ちで毎日大学でいろいろ指示を含めて学生さんと接しているわけなんですけれども、学生さんの気質、たとえば太田さん、まあ我々もほぼ同世代ですけれどもずいぶん30年、40年前とは変わってきたとよく世間では言うんですけれども、実際に学生さんと接していて、ああこの辺は一緒じゃないかとか、どんな感じをお持ちですか。

学長：一つは若者全般に対する見方。それから福祉に興味を持つ本学の若者ならではの視点あると思うんです。

若者全般についていいますとあまり変化は無いんじゃないかという気持ちがあります。というのは表現能力がかつてよりも狭まっている。あるいはコミュニケーション能力がやや苦手な学生が増えている。しかし、若者が中に持っているエネルギーといいますか、マグマといいますか、そこは変わらないと思います。ですからそこをいかにひきだすか、あるいはコミュニケーション能力が無いといわれているけども、じゃあ書かせたら書くんじゃないか、歌わせたら歌うんじゃないか、といった発露の手段が違う、そんな印象を持っています。

もうひとつ、本学ならではの特征かと思いますが、本学の若者は非常に共感能力が高い。ですから批判するよりも、相手の立場にたって、一緒に心が動く、そういう学生が多いのかなという気がします。

澤木：なるほどねえ。まさにそういう皆さんが集まってくる場所だとは思いますが、そこですね、今時代は少子高齢社会ということで本当に福祉ですとか育児支援ですとか、介護、われわれ住民市民にとっても非常に大切ですし、いろんな国とか行政の政策的にも非常に重要な役割をこれから持つ時代にはいっていると、そういうなかで静岡福祉大学長としてもいろいろビジョンをお持ちではないかと思うのですが。ずばり静岡福祉大がこの静岡県内において

これから果たす役割ですね。学長としてはどんな気持ちで臨んでいらっしゃいますか。

学長：一言でいえばですね。私たちの使命は実践力のある福祉・教育専門家の養成をつうじて福祉社会をつくる。そういう使命があると思っております。

少子高齢化、そしてさまざまな家庭の問題、そうした社会問題に対して、かつての福祉の活動は、どちらかといいますと、汗と情熱で解決していくボランティア精神が評価された。しかし、今の状況は汗と情熱だけではなく、専門知識と専門技術で問題を解決していく、そういう人材が求められています。そうしますと、ある一定のカリキュラムを通じた養成が欠かせない、そんなふうに思っています。

澤木：汗と情熱もちろん大事なんでしょうけども、これだけ世の中が複雑になってまいりますとそれにプラスおっしゃったような専門的な知識、そして先ほどおっしゃった共感力ですか。そういった気持ちの部分これが一層求められるということなんですね。なかなか大変な時代ですね。

学長：そうですね。それが民間企業でも、福祉に限らず、本学の求人票を見てますと、私たちの学生、若者は共感力がある、と。そうであればうちはホテル業界だけでも、そういった人材がほしい、そういう話を聞くにつけですね、世の中全体がそういった福祉の専門性を要求する、あるいは求められている、そういう時代なのかなと強く感じております。

澤木：いわゆるその施設だとかそういう場所だけでなく、いわゆるサービス業の皆さんからもぜひ来ていただきたいという。これは学長としては嬉しいことですよ。

学長：そうですね。ようやく時代が追いついたのかなと思いますね。

澤木：静岡福祉大のビジョンという続きになりますけれども日頃から太田さんはですね、10年後にも存在感のあるキャンパス、大学でありたいということですが、それについてはどんなてんをもっていらっしゃいますか。

学長：そうですね。やはり若者が減っていく中で福祉というのはですね、生活全体を考えると重要な柱の一つだと思うんですね。一方で競争を通じて売り上げを目指す、高めていくそういう分野も必要だと思います。しかし同時に介護をはじめとして福祉という柱はかかせないわけですね。ですから10年、20年あるいは50年たってもですね、その核としての福祉という柱は外してはいけなく、そこを守っていく、あるいはそこを支える人材を供給していく、養成する機関として継続しなければいけない。そんな強い信念を持っております。

澤木：核としての福祉この力をとにかかく鍛えていくんだということですが、他の大学では見られないようにするに福祉大独自の実際その教育方法ですね具体にはどんなことをされているのでしょうか。

学長：一つの特徴として申し上げられるのは少人数教育ですね。対人援助サービスですので、マスではなく、それこそ10人ですとか、あるいは20人以内の単位で、人と話すときですね、どのような技法がもとめられているか、あるいは相談援助という分野を考えますと、来た人がですね、必ずしもこうしてほしい、こういうことに悩んでいるとストレートに言うとは限りませんね。なかなか言いにくい。そこをどうひきだすかとか、あるいは話が終わって、

それじゃあねというときに、実はこういう悩みがあるですとようやく発言されることがあるわけですね。ですから、そういった相手との間合いですとか、あるいはコミュニケーションのメカニズム、そこを少人数で学んでいく、その辺が特徴かなと思います。

澤木：非常に実践的ですね。演習科目が多いといえますか。かなりそういいますと、どう人と接したらいいのかあるいはどう人の気持ちを引き出すのか、非常に大事なポイントになると思うんですけども、学生さんもいい経験になりますね。

学長：そうですね。自分の能力が引き出されたという感想ですとか、あるいは自分がそこで成長した、発達した、そういう感想を非常によく聞きます。

澤木：10年後にも存在感のある大学を目指して一生懸命太田学長として奔走されているということがわかりました。来年度また新たな学部を開設しようとお考えのようですがこれはどういうことでしょうか。

学長：子ども未来学部子ども未来学科1学部1学科を構想中でして、これは幼稚園の教員免許そして保育士の資格の両方を取得できる学科なんです。今、子育て支援ということが国のレベルでも重視されておりますが、そうした子育て支援を担う専門職を養成したいと考えております。

澤木：少子化ではあるんですけども、やはり子育て支援の役割っていうのは今後ますます重要になってまいりますもんね。

学長：少子化ならではだと思います。と申しますのは少子化つまり人口が減っていきますとね、一人一人が働ける環境を整備していく必要があると思うんですね。そういう意味では主婦の方、あるいは子供を持って働く方、それから障害をお持ちの方、高齢者、そうした方が働ける環境をつくっていくうえで、子育ての支援っていうことも大変重要なことかなと思いますね。

澤木：そうですね。そのお子さんだけをみるんじゃなくてそれをとりまく家族とか、家庭そのものもやっぱ支えて支援していくようなそんなお気持ち。

学長：そうですね。おっしゃるとおりです

澤木：来年度新たに子ども未来学部、私どもの事業にも子ども未来プロジェクトがありまして、なんか今時代の流れかもしれませんね。

学長：ありがとうございます。

澤木：さあ、そんな学長、太田学長ですけども、私ね趣味を伺って驚いたのですが、ジャズピアノを演奏されると軽やかですね。

学長：へたな横好きです。

澤木：もう長いですか。

学長：かつてはバンドも組んでおりましたし、それからかつて2、3年前までは藤枝のレストランでクリスマスイブなどに訪れる恋人たちが愛を深めるようにそんな曲目を演奏しておりました（笑）。

澤木：そうですか。1度ね。聞いてみたいもんですけれども、曲としてはどんな分野が多いんでしょうか。

学長：バラードが多いですね。曲で言いますと「ミスティ」ですとかね。あるいは「星に願いを」ですとか、ディズニーの曲ですとか。

澤木：定番ですよ。それをじゃあ恋人たちがレストランで語り合っている後方から様子をうかがいながらムードにのせていくような。

学長：愛を深める黒子として・・・。

澤木：黒子ですか。ちょっとね、意外な感じもするんですが。いいですね。でもね。

学長：ありがとうございます。

澤木：どうですか。ピアノを弾くと気分も変わってきますか。

学長：そうですね。健康にもいいんじゃないんでしょうかねえ。心身ともに。

澤木：そうですか。またちがう学長の姿を垣間見たような気がいたします。
では改めて最後にこの大学をこんなふうに持っていきたい抱負を一言おねがいします。

学長：やはり先ほどもちょっと申し上げましたけれども、能力というのはですね、私たちが教えるのではなく、それぞれの若者が自分の中に持っていると思っています。ですからそこを引き出す、それを自分で自覚してもらい、それが教育かなと思いますし、それから社会に出ていくうえで、大学は最後の教育の機関ですので、全員をですね、一人も置き去りにせず、社会に送り出したい。そんな決意を持っております。

澤木：わかりました。ますますのご活躍をお祈りします。
ありがとうございました。

学長：ありがとうございました。

澤木：今日のスタジオのお客様、静岡福祉大学学長の太田晴康さんでした。
「ラジオフォーラムしずおかマイトーク」。この番組は静岡経済懇話会、一般社団法人静岡県中部未来懇話会、サンフロント21懇話会、21世紀倶楽部の協力でお送りしました。

協力：医療福祉学科4年 森川結加(テプ 起こし)